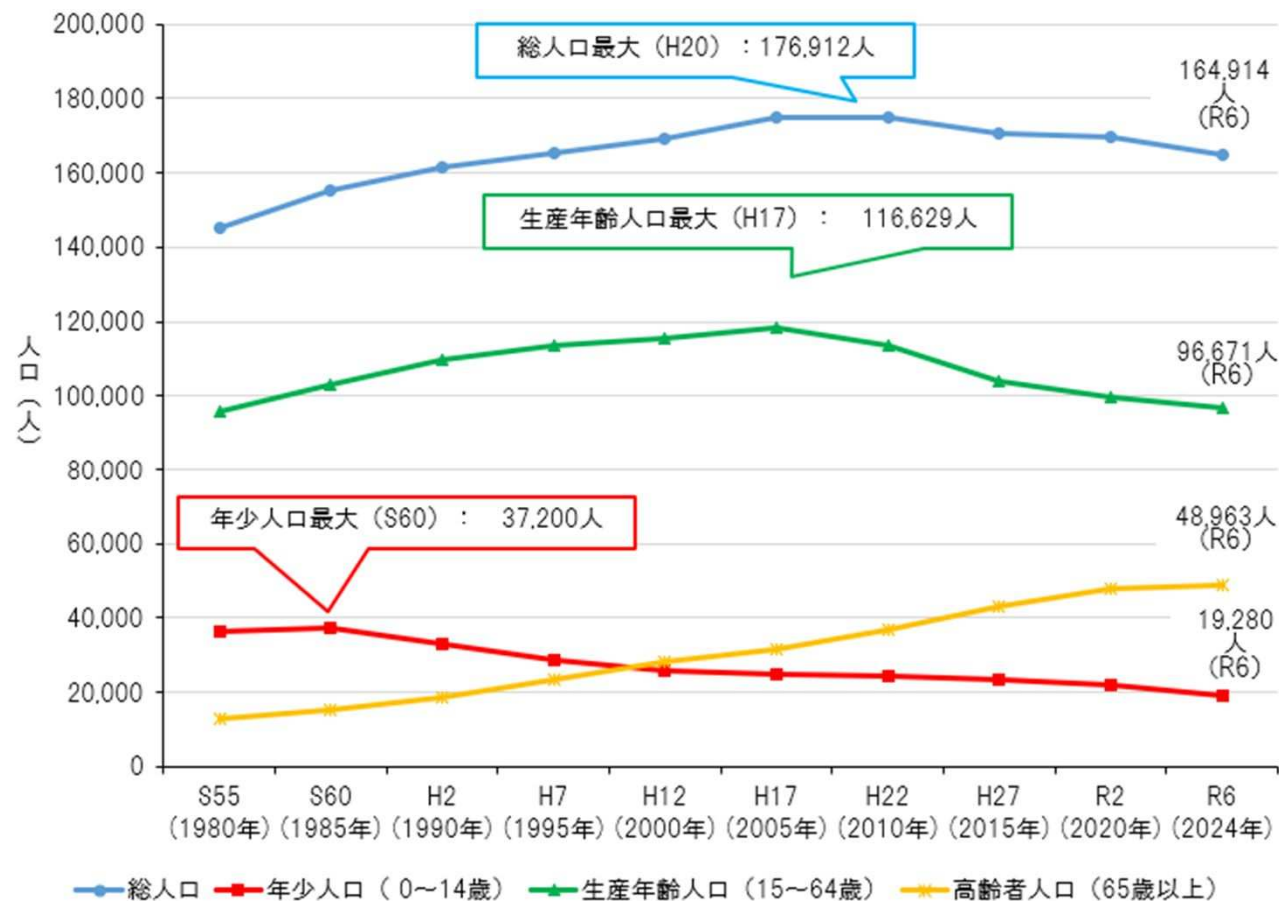


# 磐田市の現状と将来人口推計 に基づく課題について

# 1. 磐田市の現状分析 - ① 磐田市の総人口と年齢3区分別人口の推移

## 【磐田市の総人口と年齢3区分別人口の推移】



### 総人口の推移

平成20年（2008年）ピーク時

**176,912人**

令和6年（2024年）

**164,914人**

16年間の減少数

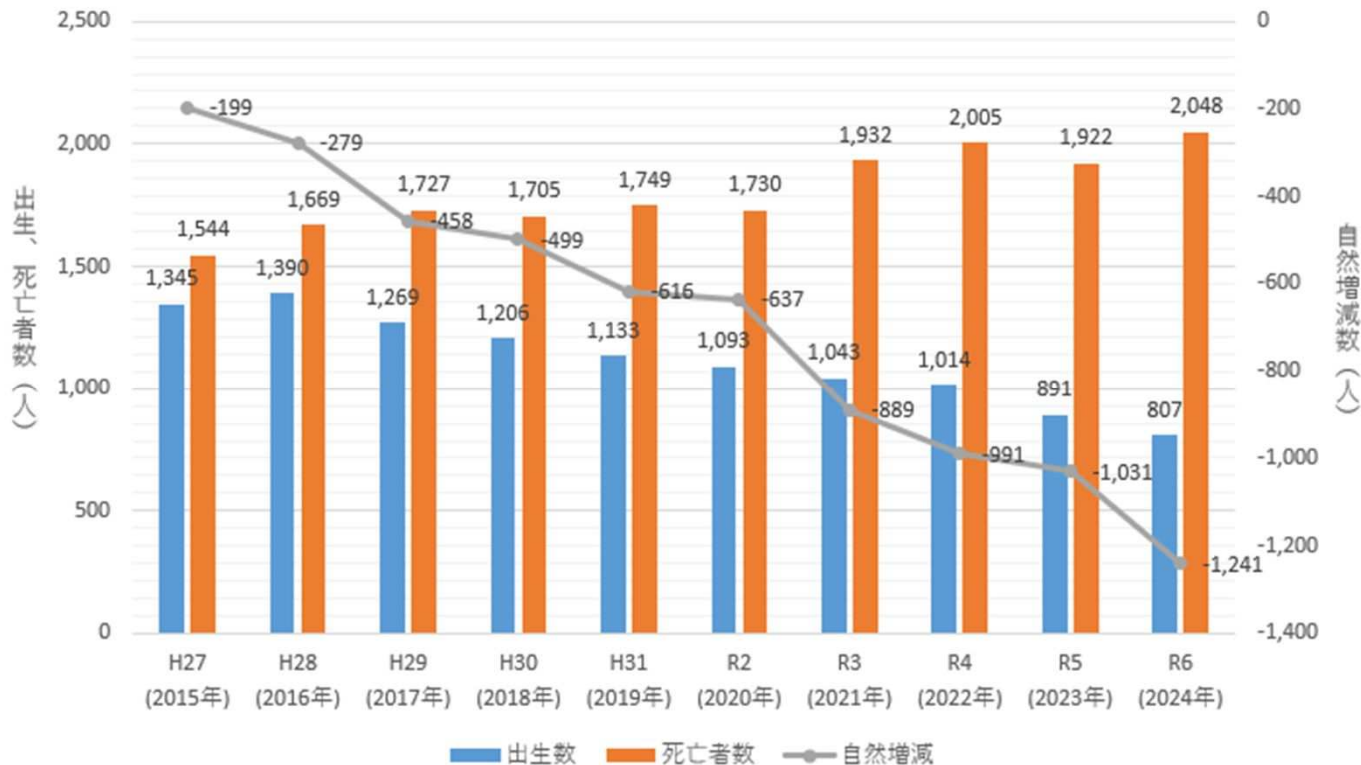
**-11,998人**

### 分析ポイント

- ・ ピーク時から現在までの減少率は約7%
- ・ 17年間で約1万2千人が減少
- ・ 生産年齢人口もピーク時から約2万人が減少

# 1. 磐田市の現状分析 - ② 自然増減の状況（出生・死亡者数）

## 【自然増減の状況（出生・死亡者数）】



## 出生数と死亡数の動向

### 出生数

- ・ 減少傾向（20年間で約600人減少）
- ・ 令和7年度は900人以上に回復の兆し
- ・ 少子化対策の継続強化が必要

### 死亡数

- ・ 増加傾向
- ・ 高齢化に伴う自然な増加

### 自然増減の推移

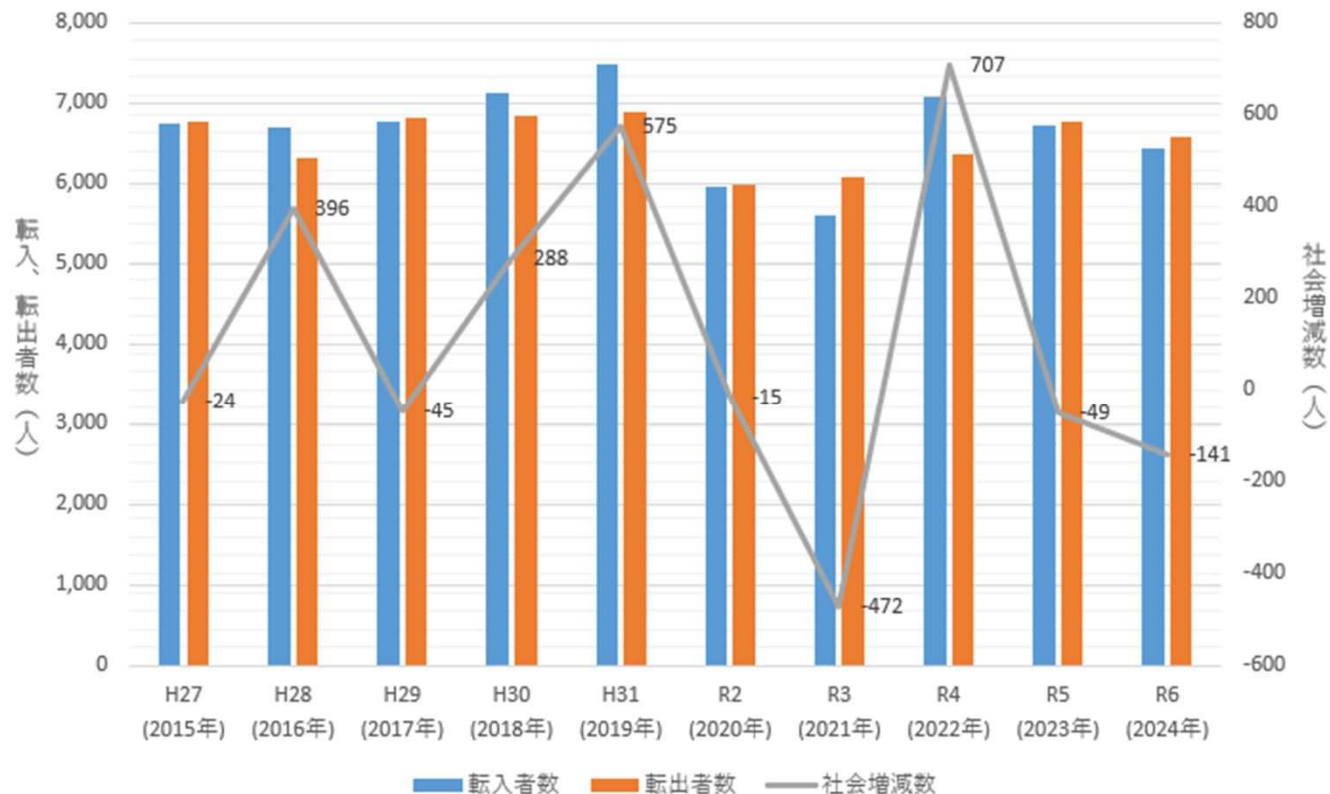
- ・ 自然減少数が年々拡大
- ・ 構造的な人口減少要因

## 分析ポイント

- ・ 自然減少数は、年々拡大傾向（20年前▲約200人⇒R6年▲約1,250人）
- ・ 出生数は、20年間で約600人減少
- ・ 令和7年度は回復の兆しが見られ、出生数900人以上を確保できる見込み
- ・ この回復傾向を維持・強化する施策が重要

# 1. 磐田市の現状分析 - ③ 社会増減の状況（転入・転出者数）

## 【社会増減の状況（転入、転出者数）】



## 転入・転出の動向

コロナ禍期間

転出抑制

移動制限の影響

令和4年

700人以上の転入超過

コロナ後の地方回帰

令和5年以降

2年連続で転出超過

転出超過傾向へ逆戻り

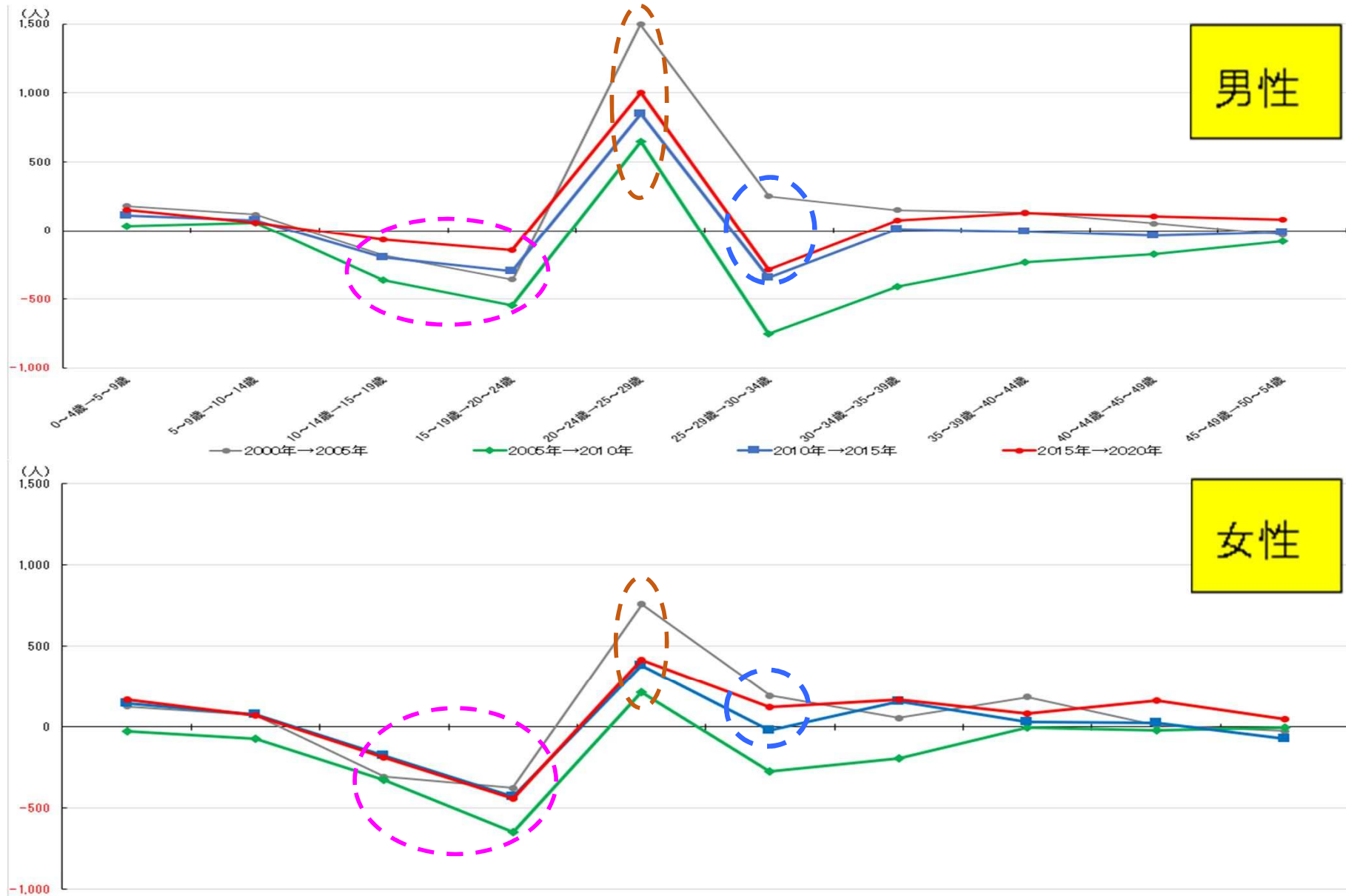
### 分析ポイント

- ・ 令和5年度から2年連続転出超過
- ・ 外国人は転入超過傾向
- ・ 令和7年度も転出超過傾向（R8年1月末時点で84人の転出超過）
- ・ 転出超過傾向への対策が急務

# 1. 磐田市の現状分析 - ④ 年齢階級別人口移動 (1/2)

## 【年齢階級別人口移動の推移】

国勢調査の結果を用いて平成12（2000）年から令和2（2020）年までの純移動数を推計し、年齢別、男女別の長期的動向を比較



# 1. 磐田市の現状分析 - ④ 年齢階級別人口移動 (2/2)

## 世代別の移動パターン (平成12年～令和2年の長期傾向)

年齢層	男性	女性	共通点
10～14歳 → 15～19歳	転出超過	転出超過	進学時の流出
15～19歳 → 20～24歳	転出超過	転出超過	大学進学・就職時の流出
<b>20～24歳 → 25～29歳</b>	<b>大幅転入超過</b>	<b>転入超過</b>	<b>Uターン・就職による回帰</b>
25～29歳 → 30～34歳	転出超過	転入超過	<b>男女で傾向が異なる</b>

### 分析ポイント

- ・ 男女共に「10～14歳から15～19歳」と「15～19歳から20～24歳」で転出が多く、「20～24歳から25～29歳」で転入が多い
- ・ 男性は女性に比べ、「20～24歳から25～29歳」での転入幅が大きい一方、「25～29歳から30～34歳」では転出が多い
- ・ 女性は男性に比べ、「20～24歳から25～29歳」での転入幅は少ないが、「25～29歳から30～34歳」では転入が多い
- ・ 子育て世帯の転入が多い (小学生年代の人口増加が証拠)
- ・ 20代後半での回帰を促進する施策が効果的

# 1. 磐田市の現状分析 - ⑤ 外国人人口の推移

## 【外国人人口の推移】



### 外国人人口

令和7年（2025年）外国人人口

10,000人超

総人口比 6.2%

### 外国人住民は、 本市の重要な構成員

- ・ 労働力確保の観点からも重要な存在
- ・ 多文化共生施策の重要性が増大

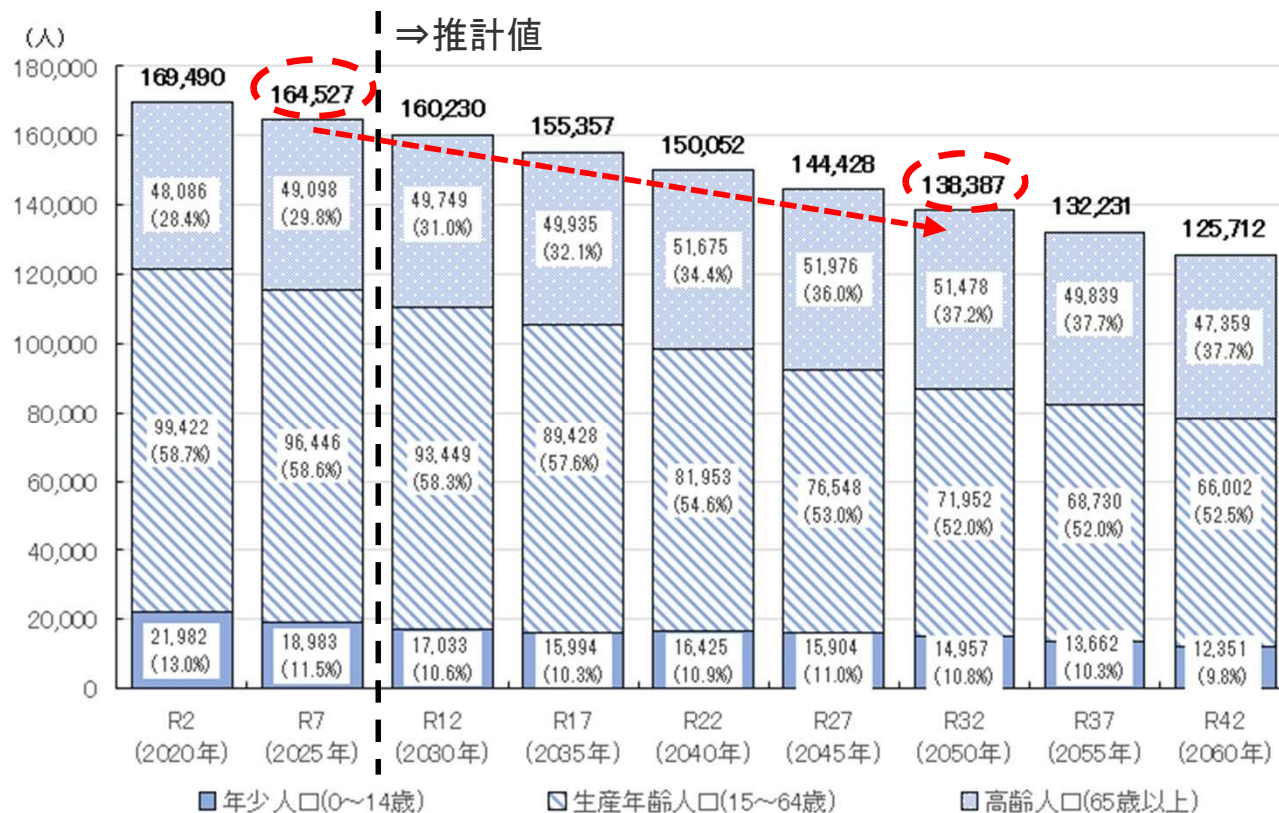
### 分析ポイント

- ・ 平成20年（2008年）以降 ⇒ リーマンショックの影響で減少傾向
- ・ 平成27年（2015年）以降 ⇒ 景気回復・人手不足により増加傾向
- ・ 令和7年（2025年） ⇒ 過去最高水準に到達

## 2. 磐田市の将来人口推計

### 【磐田市の年齢3区分別将来人口推計】

### 将来人口の推計



※国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」）に準拠した推計

令和7年（2025年）

**164,527人**

令和32年（2050年）

**138,387人**

25年後の減少数

**-26,140人**

	R2 (2020年)	R7 (2025年)	R12 (2030年)	R17 (2035年)	R22 (2040年)	R27 (2045年)	R32 (2050年)	R37 (2055年)	R42 (2060年)
年少人口(0~14歳)	21,982 (13.0%)	18,983 (11.5%)	17,033 (10.6%)	15,994 (10.3%)	16,425 (10.9%)	15,904 (11.0%)	14,957 (10.8%)	13,662 (10.3%)	12,351 (9.8%)
生産年齢人口(15~64歳)	99,422 (58.7%)	96,446 (58.6%)	93,449 (58.3%)	89,428 (57.6%)	81,953 (54.6%)	76,548 (53.0%)	71,952 (52.0%)	68,730 (52.0%)	66,002 (52.5%)
高齢人口(65歳以上)	48,086 (28.4%)	49,098 (29.8%)	49,749 (31.0%)	49,935 (32.1%)	51,675 (34.4%)	51,976 (36.0%)	51,478 (37.2%)	49,839 (37.7%)	47,359 (37.7%)
総人口数	169,490	164,527	160,230	155,357	150,052	144,428	138,387	132,231	125,712
総人口指数 (2020年=100)	100.0	97.1	94.5	91.7	88.5	85.2	81.6	78.0	74.2

## 3. 将来想定されうる課題 - ① 2040年問題

### 【2040年問題の本質】

#### 2040年（令和22年）の特徴

団塊ジュニア世代（1971年～1974年生まれ）が65歳以上となり、日本の高齢者人口がピークを迎える年

#### 2025年問題との違い

2025年問題 = 「高齢者が急増する」段階

2040年問題 = 「支え手（現役世代）が急激に減る」ことが本質

高齢者の増加と同時に、それを支える生産年齢人口が激減する「ダブルパンチ」

#### 支える構造の変化

2000年

3.9人で1人を支える

2025年

約2人で1人を支える

2040年

約1.5人で1人を支える

### 主な課題と影響

#### 経済・労働

- ・生産年齢人口の激減
- ・全国で1,100万人の人手不足予測
- ・ドライバー、建設作業員の不足

##### 【磐田市への影響】

製造業を中心とした人手不足の深刻化

#### 社会保障

- ・医療・介護ニーズのピーク
- ・介護職員の圧倒的不足
- ・「介護難民」の発生

##### 【磐田市への影響】

介護施設・人材の慢性的不足

#### インフラ

- ・公共施設の老朽化
- ・水道や道路の維持困難
- ・インフラの選別（放棄）

##### 【磐田市への影響】

維持管理コストの増大

#### 地域社会

- ・都市のスポンジ化
- ・空き家の急増
- ・地方自治体の消滅リスク

##### 【磐田市への影響】

地域コミュニティの弱体化

## 3. 将来想定されうる課題 - ② 2050年問題

### 【2050年問題の本質】

#### 2050年（令和32年）の特徴

「総人口1億人の割れ込み」と「単身世帯の一般化」が最大の特徴

#### 2040年問題との違い

2040年問題 = 高齢者人口のピーク、支え手の急減

2050年問題 = 総人口の本格的減少と社会構造の根本的变化

#### 2050年の社会像

全世帯の約4割が一人暮らし  
単身世帯が主流となる社会への転換

総人口1億人割れ  
国内市場の大幅縮小

現役1人で高齢者1人を支える  
社会保障制度の限界

### 主な課題と影響

#### 経済・労働

- ・労働力不足の慢性化
- ・国内市場縮小による企業の海外流出
- ・技術承継の断絶

#### 【磐田市への影響】

企業の海外移転・撤退リスク

#### 社会保障

- ・現役1人で高齢者1人を支える
- ・社会保険料負担が限界に
- ・医療・介護サービス供給不足

#### 【磐田市への影響】

在宅医療・介護体制の限界

#### 地域・住まい

- ・居住地域の無住化
- ・空き家率の上昇
- ・単身世帯4割の社会

#### 【磐田市への影響】

孤立・孤独問題の深刻化

#### 環境・防災

- ・カーボンニュートラルの期限
- ・異常気象の激甚化
- ・南海トラフ地震への備え

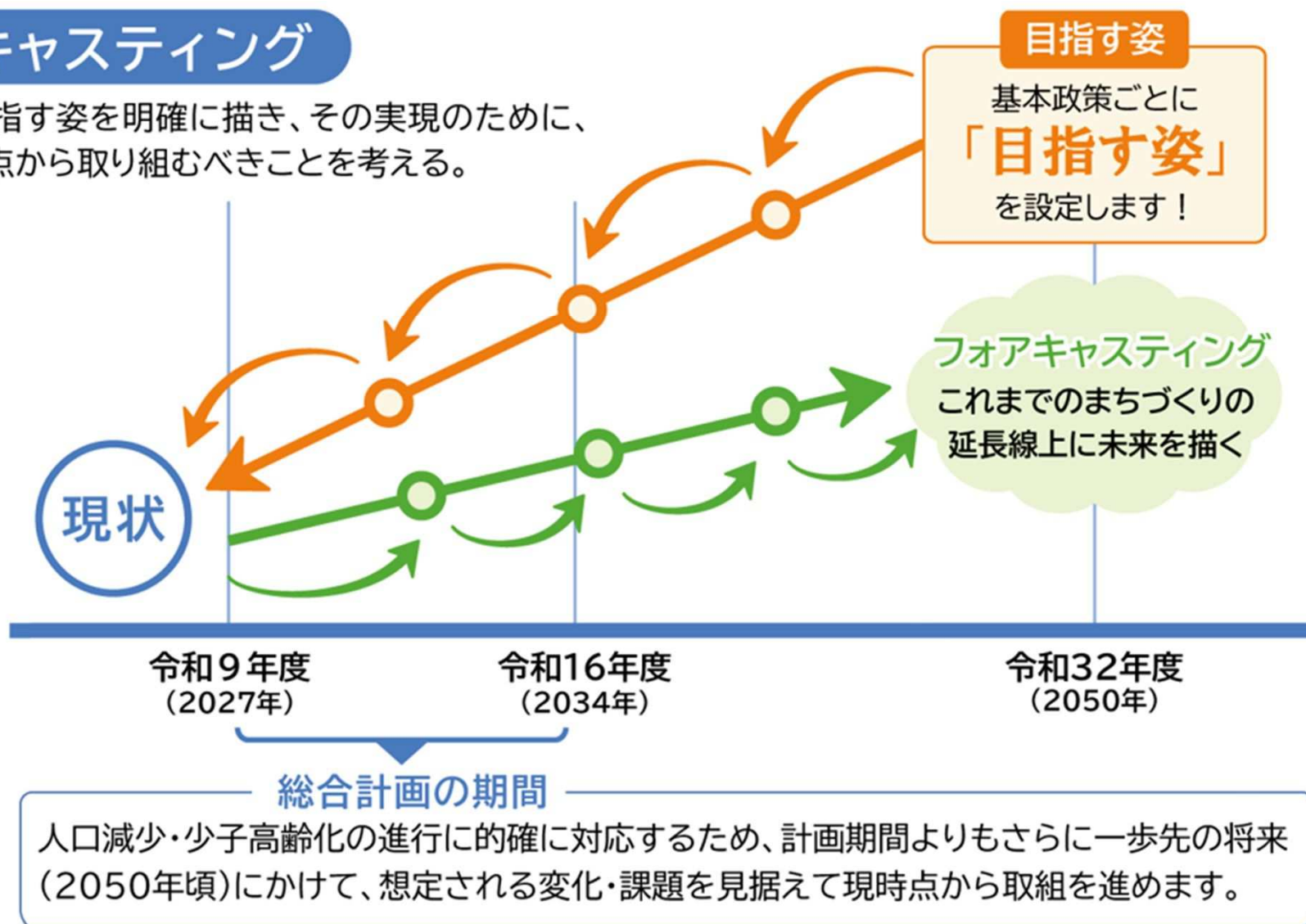
#### 【磐田市への影響】

自主防災組織の担い手不足

## 4. バックキャストによる「目指す姿」等の検討

### バックキャスト

理想とする目指す姿を明確に描き、その実現のために、逆算して現時点から取り組むべきことを考える。



## 4. バックキャストिंगによる「目指す姿」等の検討

### 現状分析から見えるポジティブな面にも着目

#### 子育て世帯に選ばれている

根拠データ：小学生年代人口が出生数を上回る

子育て支援施策のPR強化

#### 出生数回復の兆し

根拠データ：令和7年度900人超見込み

少子化対策の効果を継続

#### 外国人との共生が進展

根拠データ：外国人比率6.2%で増加傾向

多様性を活力に転換

#### 20代後半のUターン傾向

根拠データ：年齢階級別移動で転入超過

若者の地元回帰を促進

前向きな「目指す姿」を各基本政策に設定し、その実現に向け、  
図るべき「指標」や「取組」等を、総合計画に記載していきます！